

Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

りふれ

2025
Summer

夏号

Vol.

83



医療法人 再生会

くまもと心療病院

♥ 地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

- ① 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
- ② 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
- ③ 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
- ④ 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言

2025年 夏

医療法人再生会 くまもと心療病院 理事長・院長 荒木 邦生

まだクマゼミも鳴いていないのに、なんと早い梅雨明けだろう。この暑さがあと2か月続いたら身体が持たないと思う。小学生の夏休みに、気温30度超えて「暑い」と言いながら、扇風機の前でカルピスを飲んでいた頃が懐かしい。最近は35度超えて「苦しい」と言いながら、エアコンの効いた室内から出られないのが現状である。「うちは扇風機しかありません」という患者さんが何人かいたので、避難的入院を勧めてみたが「慣れています」と断られた。貧困や高齢の方々にとっては危険な季節である。

鹿児島県のトカラ列島では地震が続いている。我々はどうしても9年前の熊本地震を思い出してしまう、強烈な本震のあと震度3とか4の余震がずっと続いて、いつになったら鎮まるのだろうと不安な毎日だったことを。島々の住民の方はさぞかしつらいだろう。何とか少しでも早く落ち着いた生活を取り戻してもらいたい。

病院は相変わらずの人手不足で職員に負担をかけている。しかし病床利用率を上げないと経営は苦しくなる。業界全体の悩みではあるが、国はこれからの医療についてどう考えているのだろう。苦しうだから少しでも診療報酬を上げてやろう的な考えなら、これから倒れる病院が増えるだろう。来る参議院選挙の応援で県内の病院を回った時も、すべての病院のために診療報酬アップを訴えた。もし来年の改定で大幅アップが叶わなければ、病院団体による政党支援の考え方そのものを変える必要がある。

人手不足は「地域に開かれた病院」という当院の理念も脅かしている。年間行事だった夏祭りは職員への負担が大きいためできない。何十年と続いた伝統が途絶える可能性がある。しかし地域に開かれた病院であり、地域のために貢献し続ける、という基本理念の芯は崩せないと思っている。ただし今は理念を心に秘めつつ、このきびしい時代をとにかく乗り切ることを優先せざるを得ない。



りふれ 2025年 夏号の表紙 …… 山から海

天草の倉岳神社です。数年前に家族で海水浴に行った翌日に行きました。頂上に駐車場があることを知らずに、ちょっと下の駐車場に停めて山道を登りました。真夏だし、サンダルということもあり、女性陣からはブーイングが…。

その苦労もあり、なおさらこの絶景に感動しました。ストレスがたまったら是非訪れてみてください。この景色が全て解放してくれます。 (撮影者：事務部 葉室 克信)



第19回

人生を自ら切り開く「アドラー心理学」

私は看護管理室という部署で仕事をしています。看護管理室には、いろいろな問題や困りごとが毎日のように持ち込まれます。それらに丁寧に向き合い、解決に導くことが私に与えられた役割のひとつです。時には自分の常識とはかけ離れた考え方や行動に直面することもあり、自分自身の未熟さを痛感します。ただし、仕事を通して様々な経験を積ませてもらうことで、心は段々強く大きくなっているようです。それでもグッと落ち込むような出来事があると、やはり心は痛みますし傷つきますが、ある考え方に出会ったことで楽に過ごすことができています。私は長崎県出身です。20代の頃に進学のために熊本へ来ましたが、学費も生活費も全て自分で賄わなければならず、知らない土地でアルバイトに明け暮れる毎日でした。心身ともにクタクタでしたが、目標に向かってがんばった時間や経験は、私にとってかけがえのない財産です。そんな学生時代に、ある先生から学んだことがあります。不登校など学校教育がテーマの授業だったのですが、それが「アドラー心理学」を知るきっかけでした。30年程前の私はその考え方に勇気をもらいましたし、今でも悩んだときに心の支えとなっています。

「アドラー心理学」とはオーストリアの精神科医であるアルフレッド・アドラーが提唱した心理学です。10年程前からちょっとしたブームになっていて、関連する書籍

もたくさんあります。有名なのは「嫌われる勇気」という本でしょうか。一度は見たことがある、聞いたことがあるという方も多いかもしれません。心理学なので、本格的に学ぼうとすると大変な努力が



いりますし、難しくてわからないこともたくさんありますが、私は考え方のエッセンスとして役立てています。例えば、アドラー心理学には「全ては自分次第」という考え方があります。私たちは上手くいかないことの原因を他人や環境のせいにしがちです。「〇〇のせいで私は…」 「〇〇は何もしてくれない…」と言っていても前に進むことはできません。その出来事をどう解釈し、そこからどう行動するかを決めるのは自分自身です。そして、自分が決めたことに責任を持ち、自分にはどうすることもできないことは手放す。これができるようになると、複雑に悩むことなくシンプルに生きることができるのではないのでしょうか。生きている限り悩みは尽きませんが、自分自身の考え方を少し変えるだけで、より明るく楽しく過ごせるかもしれません。心の健康を保つために、アドラー心理学の考え方を少しだけ取り入れてみてはいかがでしょうか。

Profile

看護部 看護管理室
看護部長

堀川 利枝

Rie Horikawa

2006年 くまもと心療病院入職
2017年 看護部 副部長就任
2025年4月～ 看護部 部長就任

<資格>
日本看護協会 認定看護管理者
養護教諭一種免許状





医療法人再生会

職員互助会みどり会総会・懇親会開催

5月23日（金）18：00より、宇土市内にある「宝友」さんで職員互助会みどり会総会・懇親会を開催しました。総会には75名、懇親会には106名の職員の皆さんが参加しました。懇親会の中では永年勤続表彰があり、長年勤務された職員の功績を称えて、院長より一人ひとり表彰状と目録（※）が授与されました。また功労者表彰として濱永前看護部長が表彰され会場からは温かい拍手が送られました。会の途中からは抽選会、カラオケなどもあり最後まで大いに盛り上がりました。普段はなかなか交流の少ない職員とも親睦を深めることができ、職員同士のつながりがより一層深まったのではないかと思います。

※永年勤続表彰（10年、20年勤続など）を受けた方には、目録として特別休暇と旅行などで使用できる褒賞金が授与されます



第47回 職員研究発表会

7月4日(金)、当院の体育館において第47回職員研究発表会が開催されました。約90名の職員が参加し、毎年ご指導いただいている佐賀大学医学部看護学科教授の藤野先生に見守られながら、院内の4部署と2つの関連施設が発表しました。現在、少子化は社会に大きな影響を及ぼしており、当院も人員不足という簡単には解決できない課題に直面しています。そのため、院内の様々な恒例行事についても縮小・中止せざるを得ない状況ですが、この研究発表会は現場の協力と藤野先生のご支援をいただきながらなんとか継続できています。

今年度は、日頃から実践しているケアを振り返り、対象者に寄り添ったテーマを選んだ研究が多かったと感じています。当院では多くの職種が研究に取り組んでおり、発表することで自部署がどんな仕事をしているかを皆に示すことができますし、発表を聴くことで他部署がどんな仕事をしているのかを知ることができます。職員同士がお互いを知るいい機会であり、チームワークの向上にもつながっています。研究発表会の最後には、藤野先生から「療養している患者さまの満足度の向上に向けて、日々がんばっている皆さんの努力の積み重ねは、必ず良い方向に向かいます」という温かいコメントをいただきました。病院全体で少しでも前に進むことができるように、これからも皆で力を合わせて学び続けていきたいと思います。



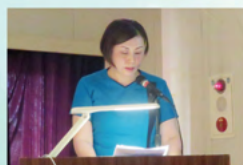
藤野 成美 教授



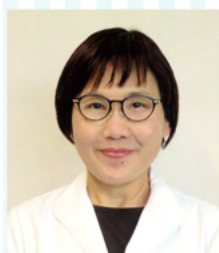
荒木院長の開会あいさつ



研究発表者の6名



新任のご挨拶



診療部長 工藤 祐美

副院長の工藤でございます。7月より診療部長を兼任いたしました。長年の間、くまもと心療病院はこの宇土の地で、若者から高齢者までの精神疾患に向き合い、地域の皆様の心の健康づくりに尽力してまいりました。私も30年近く精神科医をしてきましたが、時代によって精神疾患は大きく変化しています。これからは時代に敏感に、患者様一人ひとりに寄り添い、チーム医療を大切にした診療体制の構築に努めて参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



法人事務局 事務局長 滝本 豊

7月1日付で法人統括部門として法人事務局が新設され、事務局長の大役を仰せつかることになりました。厳しい経営環境の中、くまもと心療病院はもちろんこれまでより一層法人全体の運営面に軸足を置き、関連事業所を含めた法人全体の経営安定と発展を目指し、実現していくことが使命だと思っています。新設されたばかりで今後どのように取り組んでいくのか、私自身まだまだ未熟で不安も大きいですが、医療法人再生会の更なる発展に精一杯力を注いでいきたいと思っておりますので、何卒ご理解とご協力を宜しくお願い致します。



事務部長 葉室 克信

7月1日付で事務部長を拝命いたしました。くまもと心療病院に転職してちょうど19年の節目となるタイミングで、今回事務部長を仰せつかることとなりました。これまで事務部長職は、当院のメインバンクからお越しになった方が務めてこられましたので、まさか自分がその任に就くことになるとは思っておらず、正直なところ最初は大変驚きました。ただ、徐々にその責任の重さを感じる中で、「とにかくやるしかない」「なんとしても頑張らなければ」と気持ちも引き締まってまいりました。まだまだ力不足の点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



eラーニングと研修

当院の研修は、院内全部署研修と看護部ラダー別研修、看護補助者研修があります。

研修会ではeラーニングの活用が多くなっています。全員参加が必須の医療安全や感染研修も例外ではありません。

全員参加の研修の開催方法は、看護部と事務部を集合研修とし、参加者名簿を作成し人数を確定したうえで1回30分以内の同一研修を月に15回程実施しています。診療部は自部署のパソコンで実施。どちらもテストの点数を集計し回収する形をとっており、対象者数約250名で委託業者も参加してもらっており参加率は100%です。

2024年度の全部署を対象とした研修は年間30講義ありました。そのうち9講義は eラーニングを織り込んだ研修でした。看護部に限った研修となると年間23講義中15講義でeラーニングを活用しました。

看護部研修は、看護部教育委員である病棟主任が、ラダー別に必要と思われる講義内容を選択検討して年間計画をたて講師も担っています。昨年度は虐待や倫理に関する研修に力を注いでいます。

看護補助者研修は、全員参加が必須の為に毎月実施し、病棟主任がその講師にあたり同時に eラーニングを活用しています。

eラーニングを研修で活用するメリットとしては、タイムリーで新しく正しい情報を公平に学べる事、担当講師の資料作成にかかる時間の短縮等が挙げられるのではないかと思います。

本来eラーニングは、時間や場所にとらわれない学習、自分のペースで学習するなどのメリットがあります。Wi-Fi環境下であれば隙間時間に研修を受け集合研修を省くなどの方法もあるのですが、現時点では課題が多いのが実情です。

日々の業務と並行して研修三昧ですが、医療は日進月歩、精神保健福祉法の改正等で医療従事者として新たに知らなければならない情報は少なくありません。またパワハラ等の労働施策総合推進法の改正など、その変化を知り適切に順応しなければ正しい看護や対応ができず、時代遅れになってしまうのではないのでしょうか。

当院の研修とeラーニングのお話しでした。



書道講師の紹介

みや はら けいしょう
宮原 慶勝 先生

昭和36年に当院が開院し、精神科作業療法がまだ生活療法と呼ばれていた時代、「心」の病のある患者様には、薬に頼らない健康的な生活を送ってほしい」との荒木 邦治 前理事長の考えにより、当院では生活療法として、早くに様々なクラブ活動が立ち上がりました。昭和42年1月より本格的に、書道、生花、舞踊、俳句の講師が招かれ、現在まで約58年続けて来て頂いているのは、書道講師の宮原 慶勝 先生お一人となりました。宮原先生は、患者様一人一人に合わせた手本をその場で書かれ、丁寧な言葉かけで優しく教えられ、患者様からも「先生、先生」と親しみを込めて呼ばれ、とても人気があります。宮原先生から褒められたり、認められたりする経験や、書道を通して成長できる喜びを感じることで、自信につながり、笑顔も増え、達成感ややる気が芽生える患者様も多くいらっしゃいます。書道活動は毎週水曜日午後1回実施しており、ご自宅から書道を習いに来る外来患者様もいらっしゃいます。当院に入院・通院中の患者様の中で、書道に興味がある方は、ぜひご相談ください。



平成24年 当時の活動風景



令和7年 現在の活動風景



文化祭の展示



昭和時代、宮原先生による
院内行事の横断幕作成風景

お知らせ コーナー

2025年度 自治会の報告

5月29日に入院中の患者様から直接ご意見をお伺いする自治会を開催しました。夏祭りやクリスマス会などイベントに関する質問や献立メニューのリクエストなどのご意見が寄せられました。皆様が楽しみにされているイベントについては「患者様のご希望に添えるように動いていきたい」とお伝えしました。各病棟集まって直接意見を伺える貴重な会ですので、来年も集まって開催できればいいと思います。



くませいフェスタ

6月5日にくませいフェスタに参加しました。前回同様にウイングまつばせで開催され、当院は入院患者様4名の参加予定でしたが、実際には患者様は2名の参加となりました。1チーム4名でしたので急遽2名のスタッフがゲームに参加する事となり、ルールとして2名以上の職員参加の場合は点数が付かない事となり予選敗退となりました。ただ、参加した患者様はスタッフ作成の横断幕やうちの応援グッズを携えて参加し、笑顔もあって楽しまれました。最近は院外での活動ができていないため、参加された患者様は気分転換にもなったと思います。また、アトラクションではくまもんが登場し、会場はとても盛り上がっていました。

患者様の普段見る事のない笑顔や会話、行動などみると、病院内での活動だけでなく、外に出て参加し活動していく事の大切さを感じました。



認知症フォーラム in うと 2025

9月20日（土）宇土市役所にて開催します。遺言や終末期の支援に関して講師の方にお話していただく予定です。また、9月の認知症月間に合わせて市役所に認知症コーナーを設置します。オレンジガーデニング活動の様子や認知症サポーターである小学生が作成した新聞等を展示します。

後援：くまもと心療病院地域拠点型認知症疾患医療センター TEL (0964) 22-1106

編集後記

梅雨が明け、本格的な夏を迎えました。今年も全国で最高気温記録が更新されそうです。水分補給、適度な塩分補給を心がけて熱中症対策をしていただきたいと思います。身体にこたえる猛暑が続きますが、皆様もお身体を大切にお過ごし下さい。
(東4階病棟 看護師 村上)



関連施設

医療法人 再生会

■地域拠点型認知症疾患医療センター	☎0964-22-1106
■すみれ訪問看護ステーション	☎0964-22-0402
■認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」	☎0964-22-1118
■小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」	☎0964-22-7277
■うきうき地域生活支援センター	☎0964-22-2510
■自立訓練(生活訓練)事業所「ソレイユ」	☎0964-22-5366
■障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」	☎0964-22-5501



外来診療

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休 診
午後	○	○	○	○	○	休 診

診療	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日

お盆休み(8月15日)・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。(診察券は大切に保管してください)

※ マイナンバーカードまたは資格確認証は、受診の都度ご提示下さい。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。



交通のご案内

- JR鹿児島線・三角線 「宇土駅」下車
→バス(約20分) →タクシー(約10分)
- JR鹿児島線 「松橋駅」下車
→タクシー(約5分)
- 産交バス熊本方面から八代・松橋行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 産交バス松橋方面から熊本行
→「松山」下車 (徒歩1分)
- 松原交差点から八代方面へ車で約5分

